



↑男岳頂上で、4年ぶりにピッケル交換が行われました。
秋田駒ヶ岳・乳頭山の情報は <https://akikoma.jp/> から→

秋田駒ヶ岳山開き
6月1日、秋田駒ヶ岳の山開きが行われ、秋田駒ヶ岳八合目で地元山岳会の会員や登山愛好家、関係者など約80人が参加し、今シーズンの安全を祈願しました。
式典では主催者の（一社）田沢湖・角館観光協会の佐藤和志名誉会長が「おいしい空気を吸いながら山に登るのが楽しいところ。一年安全に楽しく登山していただきたい」とあいさつしました。
その後、男岳を目指して4年ぶりとなる記念登山が行われました。当日は晴天でまさに登山日和。参加者は一歩一歩踏みしめながら景色やお花を楽しんでいました。男岳頂上では、若手組の国見温泉登山口から入山した栗石町の関係者約70人と合流。ピッケルを交換し互いに山開きをお祝いしました。
誰でも登りやすい山と言われている秋田駒ヶ岳ですが、安全で楽しい登山にするために服装や装備をしっかり準備し、万が一に備えて登山届を提出しましょう。

表紙の写真から



ひのきないこども園で網戸を張り替える様子。

秋田建築労働組合角館支部 第28回住宅デー

6月18日、秋田建築労働組合角館支部（支部員約160人）による「第28回住宅デー」が立町ポケットパークで開催されました。
当日は、同支部の職人およそ20人が、無料で包丁研ぎやまな板削り、木製のコーナーラックを作る木工教室が行われました。
また、ひのきないこども園では、同支部の職人6人が材料などを持ち込み、ポランテアで網戸を張り替えたり、棚への落下防止対策、デッキの床板の張り替え、フックの付け直し、このぼりの支柱補強などの作業を手際よく行いました。
大石良助支部長は「毎年順番に市内の保育園、こども園で修繕のボランティア活動を行っているが、私が支部長になってから、ひのきないこども園に来るのは2回目。楽しい園生活となるように、この活動は子どもたちのため」と話しました。

当日は、クラシック音楽から行進曲まで、多彩な楽曲を華やかに、時には力強く演奏し、聴衆を楽しませました。さらに今回は第一部で、生保内中学校吹奏楽部との合同演奏が行われ、会場から大きな拍手が送られました。コンサート開催にあたり、仙北市自衛隊家族会の皆さんから、たくさんのご協力をいただきました。

海上自衛隊大湊音楽隊コンサート



生保内中学校吹奏楽部も加わり、演奏が披露されました。

6月10日、仙北市民会館で「海上自衛隊大湊音楽隊コンサート」が開催されました。

響き渡る多彩な演奏

観光振興に提言を

仙北市観光大使交流会

5月19日、仙北市観光大使交流会を都道府県会館（東京都）で開催しました。
この交流会は、市長を交えてお互いに情報共有や意見交換を行うことで、観光大使による観光活動の強化や今後の誘客宣伝事業へ活かすために実施したものです。
大使は仙北市出身者や仙北市にご縁のある方で、現在は観光大使10人と台湾親善大使1人をお願いしています。当日は、古賀和則氏（株式会社バスクリン・取締役相談役）、ha-j氏（角館町出身・音楽プロデューサー）、橋本修氏（角館町出身・青山学院大学名誉教授・客員教授）にご参加いただきました。
交流会では角館や田沢湖といった地名に対し、「仙北市」の名称が浸透していないことが話題となりました。「仙北市の名前だけでは伝わらない。名刺の裏に地図や英語表記を加えて名刺を活用したい」や、「どこにでもあるのではなく、宿泊に付加価値などをつけた展開をするなど、話題づくりをしてはどうか」などの提言がありました。



左から、古賀和則氏、ha-j氏、田口市長、橋本修氏。

ha-j氏からは「住んでいるときは、よさがわからなかった。SNSをみていると、住みながら地元のよさに気づいて発信している人がいる」と話し、「年齢層も広がっているTikTokで、行政の堅苦しいものではなく観光地のよさを紹介するのも有効」と、具体的な提言も出されました。
話題は観光だけではなく、少子化や人口減少、産業振興までに発展した交流会となりました。
観光大使の皆さんには名刺の活用や観光資源、イベントの情報発信など観光PRの強化に協力をお願いしていくことにしています。



10万人目の菊池さんに記念品が手渡されました。

入館者10万人達成

6月18日、田沢湖にある「田沢湖クニマス未来館」が、入館者10万人を達成しました。
10万人目となったのは、能代市の菊池文子さんと、友人6人と来館しました。
田口市長から感謝状と記念品が手渡されると、菊池さんは「田沢湖の歴史に興味があって、これまで何度か入館しているが、節目に当たって運がよかった」と話しました。
同施設は、田沢湖の歴史や文化、未来へのメッセージを発信する拠点として、平成29年7月1日に開館しました。これまでたくさんのご来館感謝申し上げます。これからも、皆さまのご来館をお待ちしています。

田沢湖クニマス未来館



組合に送られてきた画像。

サクラマスの稚魚 放流の取り組み
田沢湖漁業協同組合では、5〜6年ほど前から、サクラマスの稚魚を試験的に放流しています。
サクラマスは本来、ヤマメが海へ下って大きくなり、サクラマスとなって川に遡上する魚ですが、管轄の玉川下流域には神代、夏瀬ダムがあるため、天然魚の遡上はできません。ところが、藤原町の素波里湖で、ダムに下って大きくなる事例があることから、当地域でもサクラマスが育つのではないかと期待して放流していました。
今年、組合へ2枚の画像が送られてきて、組合員が確認したところ、サクラマスではないかということになり、おそらく数年前に放流したものと想定。現在、組合ではサクラマスの漁業権がないため、溪流魚の遊漁券で釣りを楽しむことができます。今後、漁業権が認可されるよう安定した生息に向けて取り組むことにしています。

田沢湖漁業協同組合から



踏んで転倒しないよう階段のすみずみまで拾い集めました。

くんには、民生児童委員です
仙北市民生児童委員協議会は、角館町民生児童委員協議会、田沢湖民生児童委員協議会、西木町民生児童委員協議会の3つの会から成り立っています。
今回は、角館地区の活動を紹介します。普段は、委員それぞれの担当地区内で訪問や相談活動を行っています。5月の「民生委員・児童委員の日活動強化週間」に合わせた地域奉仕活動の一環として、JR角館駅を利用する方たち用の田町山駐車場と、その周辺の清掃活動を行いました。
駅に近いため、市民の皆さんや観光客の皆さんも通る道路沿いでもあり、景観美化の一助になる活動という趣旨で行いました。皆さんも、ごみのポイ捨ては絶対にしないようにしましょう。

思い出の潟分校に賑わい

たざわこ クラフト市開催

5月20日と21日の2日間、思い出の潟分校で、たざわこクラフト市が開催されました。
昨年は規模を縮小しての開催となりましたが、今年は体育館や教室、屋外に全国各地から作家手作りの陶器やアクセサリなど、約40ブースで展示・販売しました。
クラフト市を主催する校田祐美実行委員長は、「今回で10回目。長く続けてきたことで、私自身も出展する側の人にも思い出があり、縁に恵まれたと思う。潟分校という建物があるからこそ続けてこられた。今後この建物が長く大切にされることを期待している」と話しました。



訪れた人は、お目当ての作品を手にとって作り手と会話を楽しんでいました。

室内で誰でも楽しめる

春のスポーツ 体験教室

5月27日、大曲支援学校せんぼく校で「春のスポーツ体験教室」が行われました。
これは、同校の同窓生が交流を深める「せんぼく桜スクール」と、秋田県生涯学習センター、仙北市中央公民館などの共催で開催。同窓生や指定障がい福祉サービス事業所・愛仙の利用者、地域の方など21人が参加しました。
体育館では、ピンボウリングや卓球バレー、ボッチャなど5種類のうち、興味のある種目に挑戦。スポーツ体験と久しぶりに出会った仲間との会話に笑顔が見られました。



ピンボウリングを体験し交流する様子。

来年もきれいな桜を

松木内川堤桜並木 施肥作業

5月24日、角館の松木内川堤を会場に、今年で36回目となる桜の施肥作業が行われ、角館中学校2年生と大曲支援学校せんぼく校の生徒、約100人が参加しました。
生徒は各班に分かれ、桜の根元近くに掘られた深さ20cmほどの穴に肥料を施していきました。
作業終了後、「みんな協力して作業できたのがよかった。来年の桜も楽しみ。きれいに咲いてほしい」と話しました。



来年もきれいな花が咲くよう願って作業しました。

第21回秋田県小学生
ソフトテニス選手権大会

仙北市ジュニア 選手が大活躍！

5月20日、第21回秋田県小学生ソフトテニス選手権大会が大館市高館公園テニスコートで開催されました。
この大会の男子4年生以下の部に出場した高橋颯太さん（仙北市ジュニア・西明寺小3年）・西宮隆生さん（同）ペアが優勝し、武藤小太郎さん（仙北市ジュニア・神代小4年）・伊藤篤希さん（南外神岡ジュニア・南外小4年）ペアが準優勝の成績を収めました。
また、女子4年生以下の部に出場した江橋楓さん（仙北市ジュニア・西明寺小4年）・小原妃生さん（大曲ジュニア・大川西根小4年）ペアが、第3位の成績を収めました。



左から、西宮隆生さん、高橋颯太さん、江橋楓さん、小原妃生さん、伊藤篤希さん、武藤小太郎さん。



そこに暮らす人に 触れたい旅 中山里沙



最近やっと購入できた白岩焼のカップ。夜空のような深い青が心を落ち着かせてくれます。

早いもので、協力隊として移住してから8月末で3年が経ちます。本来なら3年で任期終了ですが、国のコロナ禍措置として延長制度が設けられ、1年延長を認めていただくことができました。日々の仕事や冬の暮らしなど地域に慣れるのに思ったより余裕がなく、3年などといった間です。

協力隊としてのお仕事、「観光地域づくり」をお手伝いするためにこの土地をよく知りたいたいと思い、仙北市をはじめ県内各地を見てまわりました。そうして、仙北市の「観光地としての魅力」についてたくさん考える中で改めて分かったことがあります。田沢湖も温泉も武家屋敷も勿論強力な魅力ですが、その感動を補強し、心に強く刻むのは、その場所での生き、生活の中でそれらと付き合っている人と話をするということだと思います。その人から発せられる暮らしのストーリーが、旅行者にとって深くその土地を知る体験になります。

住む人にはなんてことない日常のひとコマ、季節ごとの過ごし方がその土地自体を表すからです。自分の経験から、旅先で人と会話をしたときにはじめて真にその土地に触れたと感じました。どの旅先であれ、思い出す時に心に浮かぶのは、胸を衝かれた景色や動物たち、そして言葉を交わした人々の顔です。宿のスタッフの人（もう帰るのか！と言われた、お店で売っているのか！と言われた、お店で売っていた、まちかどで道を尋ねたおじいさん（屈託のない満面の笑顔！）。よい会話もそうでない会話も忘れられません。

観光スポットを覗いてごはんを食べ、写真撮るだけではない、もっと深く知る体験を求める人が増えていきます。その体験が語られることでその場所が人の記憶に残り、また人を呼ぶのだと思います。

田沢湖・角館観光協会では今年度、こうしたテーマを元に、角館に新たな体験コンテンツを造成中です。訪れた人がよりたくさん、より深く仙北市に触れられる体験になるようがんばります。

日本入国規制の緩和により、台湾をはじめ多くの国に自由に行き来できるようになりました。コロナ禍で人生が大きく変わった人はたくさんいると思いますが、私もその一人です。赴任前に台湾出張は年に数回想定されていると聞いていましたが、今年年末年始の帰省で3年ぶりに両親に元気な姿を見ることができました。そして、生まれ育った故郷のはずなのに、あまりの変化に、浦島太郎の心境が分かったような気がしました。



↑教わりながら初めて笹舟を作りました。

はありませんが、一職員として仙北市の生徒さんにもぜひ異国の風を感じてもらう機会を作りたいです。赴任して以来、東北地域に秘めていた神秘さや、厳しい自然を生き抜く人々のたくましさには魅了されました。これらの事業を通して、言葉では言い表せないけど自然と引き込まれる、この土地ならではの風土や文化を世界中に共有したいです。

東北エリアでは、近隣の仙台空港や花巻空港などでは台湾との直行便が運航していますので、これからますます国際交流が活発になることが予想されます。自分の職務を果たせるように私はガリッと頑張りますので、ぜひ皆さまから応援のほどお願いします。

みんのつばやき ～もっと台湾が好きになる～

第20回



このたび、仙北市の職員として、3年半ぶりに台湾出張に行くことになりました。台湾出張の前日(6月9日)にこの原稿を書いています。今回は台湾から仙北市へ教育旅行に来てもらうため、現地説明会および学校訪問をする予定です。コロナ禍中でも台湾の学校と継続的にオンライン交流を行ってきましたので、それらの実績を生かし、国境開放の今はこのご縁を実際交流に移したいです。

コロナ禍のオンライン交流で、印象に残る出来事はたくさんあります。12月真冬の仙北市と対比に、扇風機が回っている教室に半袖短パンの台湾の生徒たちは忘れられません。特に鮮明に覚えていることがひとつあります。それは相手国に行ったことがあるかについて聞かれたとき、半数ほど手を挙げている台湾の生徒に対し、仙北市側は誰一人手を挙げていませんでした。その理由は台湾は国土面積が小さいため海外旅行が一般的とか、日本は人気な観光地だからとかたくさん挙げられると思いますが、その違いに驚きました。海外旅行経験があることをよいか悪いかを決め付けたいわけ